

プログラム番号	07007
---------	-------

平成19年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	京都大学 情報学研究科		
②学長名	尾池和夫		
③所在地	〒606-8501 京都市左京区吉田本町		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	国際部留学生課教育支援グループ	
	担当者氏名	中村 義行	e-mailアドレス y-nakamu@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
	電話・FAX番号	075-753-2489 (TEL), 075-753-2562 (FAX)	
⑤ホームページ URL	http://www.kyoto-u.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	1,069 人 (うち、国費留学生 479 人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	若手ICT研究者育成国際プログラム
②プログラムの形態	博士課程又は博士後期課程(3年間)
③交流形態・受入体制	プログラム実施大学が単数
④実施研究科・専攻	情報学 研究科 知能情報学 専攻
	(所在地) 京都市左京区吉田本町
⑤連携大学・研究科・専攻名	社会情報学専攻、複雑系科学専攻、数理工学専攻、システム科学専攻、通信情報システム専攻
⑥受入れ学生数	12 人 (うち研究留学生優先配置人数: 8人) (うち日本人学生数: 0人)
⑦担当教員数	合計 129 人 (うち専任: 116人、兼任: 13人、非常勤: 0人)
⑧研究科長(代表者)名	所属部局・職名 情報学研究科・教授
	研究科長名 富田 眞 治

【3. プログラムの内容】

開設の趣旨

京都大学大学院情報学研究科(以下、本研究科)に「若手ICT研究者育成国際プログラム」(以下、本プログラム)を開設する。わが国の体系的なICT(Information & Communication Technology)政策である「u-Japan政策」においても専門的な知識や技術を有する人材の育成が強く求められていることに鑑み、本プログラムでは専門分野における高度な研究能力に加え、ICT分野における幅広い学識を持ち、高いコミュニケーション能力を持ち国際的に活躍できる若手研究者の育成を目指す。

内容および特色

本研究科は21世紀COEプログラムや魅力ある大学院教育イニシアチブプログラムに採択されるなど、研究・教育に多くの成果を挙げており、情報学の全分野をカバーする約120名のスタッフにより世界各国からの留学生に対して最先端の研究指導を行う体制が整っている。

本プログラムでは、当該専門分野における博士学位論文のための英語による研究指導という、従来からの取り組みに加えて、けいはんな連携大学院制度などを利用して、指導教員以外の国内外の複数の教員・研究者、実務専門家等がアドバイザーとして研究指導の一部を補助し、幅広い視点にもとづく研究指導を実現する。また、日本人学生、留学生への戦略的コミュニケーションスキル向上セミナー(平成17、18年度に採択された魅力ある大学院教育イニシアチブで、ベルリッツやNHKと共同で教材開発した実績あり)を実施し、若手研究者にとって必要となるコミュニケーション能力の向上を図る。さらに、資格外活動の範囲内でTAとして講義・演習補助等の一部を担当することにより、将来の指導者としての資質の涵養ならびに学生間の交流を図る。

このたび採択された、情報学研究科社会情報学専攻を主体とするグローバルCOE「知識循環社会のための情報学教育研究拠点」(平成19～23年度)では、博士後期課程留学生を毎年12名受け入れることを拠点形成計画にあげている。この教育研究拠点に参加する留学生は、研究留学生と比べれば十分とはいえないが、RAとして制度上可能な年間約130万円の給与を得て研究に専念することができる。本プログラムにあげた受け入れ学生数のうち、人数や時間的制約、学術交流協定の有無により、研究能力があっても研究留学生優先配置を適用できない留学生にはグローバルCOEによる支援を行う。グローバルCOEでは、研究科が提供する学内スペースに「バイリンガル事務局(仮称)」を開設して世界各国からのポスドク研究員や外国人研究者の短期・長期の滞在をサポートするが、本プログラムに参加する留学生もまた「バイリンガル事務局」からの支援を受けることができる。また、学位取得後の優秀な研究留学生は、希望すればポスドク研究員としてグローバルCOE教育研究拠点において研究を継続することもできる。

教育・指導体制

(1)英語による研究指導

博士後期課程の講義合計6単位の授業科目「特別セミナー」はセミナー形式で行われるため、これまでも英語による授業を行っており、日本語能力の不足は単位取得の妨げにはならない。また、留学生に対する個別の研究指導は英語により行う。

(2)複数アドバイザー、国際アドバイザー制

研究指導においては、直接の指導教員の他に、国内外の複数の教員・研究者、実務専門家等をアドバイザーとして配置し、幅広い視点にもとづく研究指導体制をとる。

とりわけ、グローバルCOEの支援のもとで国内外から招聘する多数の教員・研究者の一部は、予算措置のもとで、本プログラムに参加する留学生のアドバイザーとしての役割も果たす。

(3)特別講義、特別講演の受講

本研究科は、外国人客員教授のポストをもち、外国人招聘研究者、招聘客員教員および海外の研究者の来学が頻繁にあり、これらの研究者との交流や最先端の話題についての特別講演、講義等が多数行われている。本プログラムに参加する留学生をこれらの講演・講義に積極的に参加させることによりICT分野の幅広い知識の習得を促す。

とりわけ、採択されたグローバルCOEの支援のもとで多数の外国人研究者の特別講演、講義担当が予定されており、ICT若手人材育成のための優れた教育研究環境が整っている。

(4)けいはんな連携大学院との交流

平成19年度より、京都大学、大阪大学、奈良先端科学技術大学院大学の情報系研究科とICT分野で顕著な実績をもつ京都府南部のけいはんな地区の研究所群(NTTコミュニケーション科学研究所、NICT、ATRなど)とが連携した「けいはんな連携大学院」がスタートしており、これらの諸大学、研究所との交流、アドバイザーの依頼により、留学生に対して、諸大学の教員の多様な視点・知見や、産業界や国の研究機関の視点からの研究指導を受けることや、これらの研究機関でのインターンシップやポスドク研究員となる機会を与えることができる。

(5)戦略的コミュニケーションスキル向上セミナー

ICT分野の若手研究者にとって、研究開発能力をもつだけでなく、他者との円滑なコミュニケーションがとれることが極めて重要である。そこで、本プログラムでは、ベルリッツ(株)やNHKとのコミュニケーションスキル向上のための教育用教材開発の実績の上に、留学生だけでなく希望する日本人学生も対象とした「戦略的コミュニケーションスキル向上セミナー」を実施し、若手研究者にとって必要となる英語と日本語によるコミュニケーション能力の向上を図る。

使用言語

英語および日本語(日本語能力が不足している留学生に対しては英語主体)

募集方法、募集対象国、学内選考方法等

海外の大学の修士課程修了者および修了予定者を対象とする。

学内での選考では出身大学院の指導者からの推薦書、業績リストおよび論文別刷、修士課程の成績表、これまでの研究経過報告書ならびに博士後期課程での研究計画書等の提出を求め、本研究科に設置する選考委員会において厳正な審査を行う。また、必要に応じてPCカメラやメール等を用いた応募者本人に対するインタビューなどを行う。

グローバルCOEが支援する博士後期課程留学生の受入れシステムと連携することで、研究留学生としての出願や選考・審査に先行して本プログラムへの参加希望者には随時選考を開始し、優秀な留学生を早い段階で確保する。

修了後に想定される進路、修了者に期待できる効果およびフォローアップ体制

博士学位取得後は母国の大学、研究所等で第一線の研究者として研究に従事する他、本研究科との連携の核となる教育・研究者として後進の指導にあたる。また、わが国の研究機関での研究員としての活躍も期待される。

とりわけ、学位取得後の優秀な研究留学生は、希望すればポスドク研究員として一定期間グローバルCOE教育研究拠点に参加し、研究を継続することができる。

修了者に期待できる効果としては、博士学位取得後、各国でコミュニケーション能力の高い若手研究者として活躍することにより、本研究科からの世界への情報発信が一層強化される。また、海外との人的ネットワークの拡大、国際的な研究協力の推進に大きく貢献する。

フォローアップ体制としては、本研究科の同窓会会員として定期的な本研究科の活動状況の紹介、国際シンポジウム等の案内などを行うことで、帰国後も人的ネットワークの維持・発展に努める。

グローバルCOEでは、21世紀COEで既に実績のあるアメリカ・シリコンバレー、タイ・バンコク、ペキン・中国科学院、香港・城市大学などに海外拠点を開設するが、在学中にこれらの拠点への滞在を経験することも、修了後の進路選択や修了者の活躍を助けるものとなる。